

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

平成29年7月2/日

三田市議会議長 平野菅子 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	美藤 和広	印 [Redacted]
		議員名		
派遣者氏名				
視 察 先	〒955-8686 新潟県三条市旭町2-3-1 三条市役所 〒954-8686 新潟県見附市昭和町2-1-1 見附市役所 〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1-2-5 糸魚川市役所			
調査事項 (調査目的)	三条市：マイナンバーカードによる独自サービスについて 見附市：教育委員会に子育て関連業務を一元化について 糸魚川市：子ども一貫教育方針の基本理念について			
日 時	平成29年6月28日(水曜日)～平成29年6月30日(金曜日)			
視察先対応者	三条市：駒形一興 議会事務局長、目黒正人 議会事務局主任 山澤浩幸 総務部情報管理課長  見附市：重信元子 総務文教常任委員会委員長 佐藤貴夫 議会事務局長、長谷川仁 教育部長兼こども課長 高橋英紀 課長補佐、矢澤明美 元気子育て係長、 榎本摂子 学校教育係長  糸魚川市：五十嵐健一郎議長、小竹和雄議会事務局長、山川係長 山本修 こども教育課課長、石川清春 参事・統括指導主事 山岸圭子 親子健康係係長			
添付資料	・各市属性表 ・三条市説明資料 ・見附市説明資料 ・糸魚川市説明資料 ・各市対応者名刺			

調査日時	2017年 6月 28日(水) 14時00分～ 16時00分
視察先	〒955-8686 新潟県三条市旭町2-3-1 三条市役所
調査事項	マイナンバーカードによる独自サービスについて
(調査結果の概要及び所見)	
1. マイナンバーカードによる独自サービスについて	
(1) H18年に情報化計画を策定しているが、	
①狙い：H16年大水害や中越大震災における避難者把握難の課題を受け、H17年旧三条市・栄町・田村町の合併による新三条市の誕生を機に行政判断の迅速化、伝達方法の充実、自助意識の向上を目指し、ICT化による、知恵と工夫でコスト削減・独自サービス提供を図る。	
②今日までの歩み：新潟県内5自治体（長岡市・三条市・見附市・魚沼市・粟島浦町）による「住民情報系システムの共同化」を推進し、ランニングコストを10年間で約50%（93億円⇒47億円）削減。 住基カードの交付促進（全国約5%に対し約14%）を推進した。 （8種類の独自サービスの提供とカード交付手数料の無償化などによる）	
(2) 住基カード	
①証明書自動交付の民間企業が撤退（H22年6月終了）により、マイナンバーカードへの切り替えを推進することにした。	
(3) マイナンバーカード普及に向けた独自サービスの充実	
①選挙の投票入場受付 <全国初>	
②避難所の入退所受付 <全国初>	
③窓口支援（各種申請書の記載不要など） <全国初>	
④証明書のコンビニ交付 <県内初>	
⑤図書の出借受付 <県内初>	
⑥職員の出勤管理（市職員の所持率は85.4%）（H28.4.1現在） <全国初>	
(4) カード申請代行サービス	
マイナンバーカード普及拡大を図るため、タブレット等活用し、顔写真撮影を含めたマイナンバーカード申請の代行を実施し、申請書と写真にサインをすれば終了となる。	
①電話による予約受付…予約の際に持参物を指示	
②申請代行…申請書・本人確認書類でタブレットで顔写真を撮影及びWebで申請	
(5) マイナンバーカードによる独自サービス	
①窓口支援サービス…カードがなくても約300種類の申請書記載簡素化	
②窓口サービスの手数料はコンビニ交付で割引 住民票・印鑑/税証明は窓口300円⇒200円 戸籍は450円⇒300円	
2. 所感	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報管理課山澤課長は、平成元年から情報部門で29年の経歴で説明や質疑に自信有り。</li> <li>・H17総務省から洪水対策の応援に来た現市長が、市長となり、住民基本台帳からマイナンバーへの切り替えが加速した。やはり、トップの意向は大きいと感じた。</li> <li>・H16年の市の半分が浸水した洪水や中越大震災を受け、被災時のシステム構築を検討し、住基カード⇒マイナンバーカードへの普及に努めてきた。</li> <li>・近隣市とのシステム共用化を率先し、システム構築や保守の経費を削減している点は、阪神地区との連携が可能なら、三田市も大きなコストダウンが図れる、と考える。</li> <li>・マイナンバーカードはシステム一元に大きな効果を期待できるので、ぜひ三田市も推進を図れるよう、支援していきたい。</li> </ul>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、派遣者氏名は不要）

市民の会：美藤 和広

調査日時	2017年 6月 29日(木) 10時00分～ 12時00分
視察先	〒9545-8686 新潟県見附市昭和町2-1-1 見附市役所
調査事項	教育委員会に子育て関連業務を一元化について
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>1. 教育委員会に子育て関連業務を一元化について</p> <p>(1) こども課を教育委員会に設置</p> <p>①最大のメリット:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H20年度の組織機構改革において教育委員会に「こども課」を新設し、乳幼児期から18歳までの人格形成をトータル支援する体制とした。「こども」に関する一貫した施策を展開し、家庭・学校・地域の総合的な教育力の向上を目指した。</li> </ul> <p>②市民の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民は、母子手帳交付から、医療費助成や手当関係、保育園・幼稚園から学校教育まで、「こども関連」は市役所4階で用が足りるで安心である。</li> </ul> <p>(2) 福祉関連部署との連携</p> <p>①保健師の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会こども課に3名、</li> <li>・健康福祉課に10名(教育委員会併任辞令)、</li> <li>・健診時等は協力体制で実施。</li> </ul> <p>2. 奨学金</p> <p>(1) 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的理由による就学困難者に月額3万円以内の奨学金を貸与し、貸与期間の2.5倍の期間で返還。</li> </ul> <p>(2) 返還免除</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別返還免除として、卒業後、市内在住で市民税を納税すれば、前年度納付の市民税の1/2(年3.6万円限度)、5年まで免除。</li> </ul> <p>3. 所管</p> <p>三条市や長岡市などこども支援部門を教育委員会に一元化している市がある。「こども」と全てひらがなにすることで、0→18歳をトータルで支えていく市方針を表現したもので、一元化の方向性でもある。</p> <p>少子化・核家族化が進む中、保護者が抱える家庭や子育ての不安や、教育に関する様々な手続きの難解さには、相談支援体制や事業充実が不可欠である。家庭教育力の向上や地域で市民が皆で育てる「共育」を推進する支援の一元化であった。</p> <p>三条市もそうだが、近隣市との連携はよくできていて、いろいろなコスト削減を図っていた。さらに、市独自政策を上乗せして、「競い合う」、良い意味のライバル意識を感じた。子育て施策はどの自治体も誘致の柱であり、三田も近隣との連携によるコスト低減と独自性の売りのため、しっかりと知恵を出さなければならないと、痛感した。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

市民の会：美藤 和広

調査日時	2017年 6月 30日(金) 10時00分～ 12時00分
視察先	〒941-8501 新潟県糸魚川市一ノ宮 1-2-5 糸魚川市役所
調査事項	糸魚川市子ども一貫教育方針の基本理念について
(調査結果の概要及び所見)	
五十嵐議長 地質や景観を世界ジオパークに認定、産品のヒスイが国石に選定された。	
1. 糸魚川市子ども一貫教育方針の基本理念	
「糸魚川大好き! 「わがいといがわ」と言えるよう家庭・地域・園/学校が協力	
(1) 対象を0歳から18歳までとした理由	
妊娠から高校まで、地域で一貫して教育支援する取組。	
H21年度：一貫教育方針を策定	
H22年度：庁内機構改革で子育て・教育に関する行政窓口一本化	
H23年度：中学校単位で具体的な実践	
H26年度：「子ども一貫教育方針」の見直し	
H27年度：「子ども一貫教育基本計画」の見直し	
H28年度：H35年度までの8年間を前期・後期4年ずつに分けて実践	
(2) 3つの育成を柱に、家庭・地域・園/学校が協力	
①豊かな心の育成…自己肯定感を高め、豊かな心と社会性	
②健やかな体の育成…規則正しい生活リズムで、自分の健康管理能力	
③確かな学力の育成…学び合いで学習意欲・確かな学力、交流・共同学習で自立	
(3) 高校との連携	
・保育・幼稚園・小学・中学・高校の園長/校長を交えた一貫教育支援体制	
(4) 生活リズム改善の成果	
・妊娠期の喫煙の問題・電子メディアのリスク・早寝早起きおいしい朝ごはんの推奨 保健師が中心にマンツーマンで進めている。	
・アンケートを取りながら、定量的に効果を出している。(地域行事やボランティア、 学力、いじめ・不登校など)	
2. 所見	
・小学校は小規模校が多く(複式学級ありが7校、完全複式学級が3校)で、 最大規模校は500人弱とのこと。マンツーマン面談はこの点による。	
・「早寝早起きおいしい朝ごはん」は、早寝早起きは生活習慣の基本、朝ごはんは大切 で、特においしい朝ごはんはおかず三品以上を食べよう推奨。これは、炭水化物だ けではダメで、たんぱく質を摂ることの大切さを妊娠時から説明し、幼稚園年長組で キッズクッキング(親は手を出さないで料理をつくる行事:魚の内臓を割り箸で出し たり、掌の上で豆腐を切る、など、本格的)を行なっている。親の苦勞を知る、自分 でも出来る喜びを得る、食事に意識が高まる、等、大きな効果を感じる、とのこと。	
・早寝・早起き・おいしい朝ごはんを前面に、妊娠期から個別面談し、生活リズムの大 切さを繰り返し訴えている。おいしい朝ごはんは保護者に負担もかかるため、保護者 への支援や、幼稚園年長児から自ら食事を作れるよう支援している。	
・電子系ゲームは脳の発達に問題あり、脳の発達は9歳までが大切とのこと。テレビや スマホのゲームによる脳への弊害を訴え、データ化している。(例えば、2時間の勉 強は2時間のゲームで消えるなど、実験データに基づいて訴えている)	
・現在、高校定員が中学卒業生を上回るため、中学での勉強意欲が出ていないことを、 課題として取り組んでいる。	
・保育・幼稚園・小学・中学・高校の園長/校長を交えた一貫教育支援体制や生活リズム 改善活動は、ぜひ三田でも参考にして取り組んでいきたい。	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

市民の会：美藤 和広